

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	ゲノムアダプテーションのシステムの理解
領域代表者	篠原 彰 （大阪大学・蛋白質研究所・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、染色体／ゲノムが環境要因や内的ストレスにより変化し、新しい特徴、構造の多様性を示す仕組み（ゲノムアダプテーション）を理解することが目的に掲げられている。それにより生命の特徴である、個体の再生とその中に見られる多様性・不均一性発生のメカニズム、さらに多様性の次世代への継承の分子基盤の理解を目指すものである。実力のある若手研究者を集め全体的に研究のレベルは高い。次世代シーケンサー等の技術を駆使して、染色体の組換え以外の、新規突然変異・CNV(copy number variation)・転移因子・エピ情報・染色体高次構造の変化などを含めた階層的変動を、ゲノムワイドに解析し、染色体上のタンパク質の分布とその変化を解析する提案は、タイムリーであり十分意義深いものである。</p>